

いのちの言の葉

「命」(保健)

平成20年度 富山市立大久保小学校 6年

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成20年7月9日実施

「いのちの連続」

生きていることはどんなことかについて、学生時代の経験や内科医としての体験などを交えてお話ししていただきました。

土田 亮一先生のプロフィール

- ・ 富山市学校保健会会長 富山県学校保健会常任理事を歴任
- ・ 現在、土田内科医院院長

「いのちは何ですか」と聞かれると私は、答えられません。なぜなら、いのちは心かもしれないし、何かを考えることかもしれないし、いのちがないと生きられないことかもしれないなど、たくさんの考えがあるからです。でも、土田先生は、私たちに自分の母や父、その父の父、その母の母などずっとつながっていることを教えてくださいました。

それから、プリントを見せていただきました。どの生物も最初は同じような姿で、そこからだんだん違ってきていました。生き物が進化していくことや変わっていくこと、それにいろんな種類の生物でも最初はみんな似ているというのは、素晴らしいことだと思いました。それから、自分が存在するのは、自分の父母、祖父母たちがいるからだと思ったし、だれかで途切れると私も弟もいなかったし、私の父母もいなくて、今、自分がいるということは素晴らしいことと思いました。



一番心に残ったのは、人はつながっているということです。今は私を産んでくれた母や父ぐらいい顔をみたことがないけれど、私たちの命をつないでくれた先祖がいることが分かりました。今、ニュースでよく人を殺したとか自殺をしたとかを見て、ぎゅっと胸がしめつけられるような感じがします。死んで悲しむ人は必ずいると思うので、自分から命をなくしたりするのはどんな理由があってもだめなことだと思います。

私の母は、看護師です。今まで人の命を救う母を見てすごいなと思ってきました。そして、今回また命の大切さを改めて知ることができました。今、生きている自分も友達も先生も、生きているのは親がいるからだ改めて実感しました。



私たちが今生きているのは私たちの先祖が新しい命を残していってくれたおかげなんだと思いました。今思えば、戦争や事故とかで子供を残さずに死んでしまい、その人の代で終わってしまうことがあるのに、私の先祖はそんなこともなく、なんてラッキーなんだと思いました。そう考えると今まで続いてきたことがとてもすごいことなんだと思いました。がんばってきてくれてありがとう、ご先祖様。

聴診器で心臓の音を聞いたときはこの音が外に生まれてくる前から続いているんだ、すごいと思いました。とても貴重な体験でした。それに、この音が止まったら、人間は死んでしまうんだと思うと少し怖かったです。